

## 今号のINDEX

- 「理化学研究所 企業版サイエンスカフェ in 横浜」初開催！ ..... p 1
- 羽田空港最新情報のご案内  
～空港内ホテルオープン/アクセスバス運行時間拡大/C滑走路延伸年内供用開始～ ..... p 2
- 国への要望活動を実施しました  
～石油コンビナートの強靱化等について/首都圏空港政策の充実について～ ..... p 4

## 「理化学研究所 企業版サイエンスカフェ in 横浜」初開催！

～ 理研との連携に関心をお持ちの企業の皆さま、ご参加ください！～

京浜臨海部に立地する理化学研究所横浜キャンパス（横浜市鶴見区末広町）では、私たちの生存の基盤である生命と環境に関する研究を行うとともに、研究成果の普及や地域との連携等にも取り組んでいます。

このたび、その活動の一環として、理研の研究内容や活動について知っていただき、理研と企業との連携の糸口を見つけていただくことを目的に、「企業版サイエンスカフェ」を、神奈川県・横浜市等と共同で開催します。

当日は、生命情報科学・データベース分野の第一線で活躍する理研の研究者が、「アカデミックな基礎研究に企業はどのように関わっているのか？」をテーマにお話しします。通常の講演会やシンポジウムとは違い、飲み物を片手に研究者と気軽に語り合えるサイエンスカフェ形式での開催です。

ライフサイエンス系やIT系企業の皆さまはもちろんのこと、理研との連携にご関心をお持ちの多くの企業の皆さまの参加をお待ちしています。

日時 平成26年12月2日（火）15:00～17:00

会場 神奈川中小企業センタービル 6階 大研修室  
（横浜市中区尾上町5-80）

### プログラム

- （1）理研の企業との連携制度のご紹介
- （2）理研の研究者によるサイエンスカフェ  
「アカデミックな基礎研究に企業はどのように関わっているのか？」

講師： 粕川 雄也（かすかわ たかや）氏

【理化学研究所 ライフサイエンス技術基盤研究センター  
大容量データ管理技術開発ユニット ユニットリーダー】

- （3）神奈川県・横浜市等の企業支援の取組のご紹介

定員 30名（先着順、参加費無料）

### 申込方法

以下のいずれかの方法で、貴社名、住所、氏名、連絡先（電話番号か電子メールアドレス）を、理化学研究所横浜事業所までお知らせください。

- ・ 電子メール [yscafe@riken.jp](mailto:yscafe@riken.jp)
- ・ 電話 (045)503-9110
- ・ ファクシミリ (045)503-9142
- ・ ウェブサイト

[http://www.yokohama.riken.jp/event/event\\_detail02.html](http://www.yokohama.riken.jp/event/event_detail02.html)

### 講師からひとこと

アカデミックな成果を求める基礎研究と利潤を求める企業とは、一見相容れがたいように見えます。

しかし、本当にそうでしょうか？

これまで理研のFANTOMプロジェクトでは、マウスやヒトの遺伝子（RNA）に注目した基礎研究を進めてきましたが、その中には様々な企業との連携がありました。

その紹介を通じて、どのような企業連携が可能なのかを考えてみたいと思います。



理化学研究所 粕川ユニットリーダー

問い合わせ先 / （独）理化学研究所横浜事業所研究支援部総務課 粕川 電話：(045)503-9166  
神奈川県政策局自治振興部地域政策課 大橋 電話：(045)210-3255

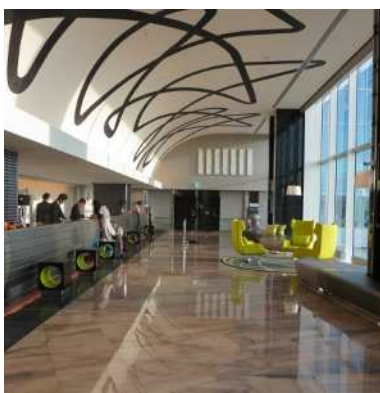
# 羽田空港最新情報のご案内

～空港内ホテルオープン / アクセスバス運行時間拡大 / C滑走路延伸年内供用開始～

今年3月に昼間時間帯の国際線発着枠が3万回増枠され、国際拠点空港化が順調に進む羽田空港。この秋から冬にかけても、羽田空港の国際化をより一層充実させる取組が続々と登場しています。ご紹介する3つのトピックスに共通するキーワードは、“深夜早朝時間帯”です。

## 国際線ターミナル内に「ロイヤルパークホテル ザ 羽田」オープン！ ～日本初のトランジットホテル誕生～

羽田空港国際線旅客ターミナルビルの3階出発ロビー。今年3月に拡張されたカウンターエリアを抜けると、「ロイヤルパークホテル ザ 羽田」のエントランスゲートが姿を現します。最も近いカウンターからは、わずか徒歩数秒の距離です。



洗練されたフロント・ロビー

### エアポートホテルとしての充実した機能

ホテルの開業は9月30日。客室は全部で313室で、このうち17室が出国エリア（保安検査後の旅客だけが立ち入りできる区域）内のトランジットホテルとなっています。客室には防音措置が施されており、すぐそばで飛行機が離発着しているとは思えないほど静かな環境です。

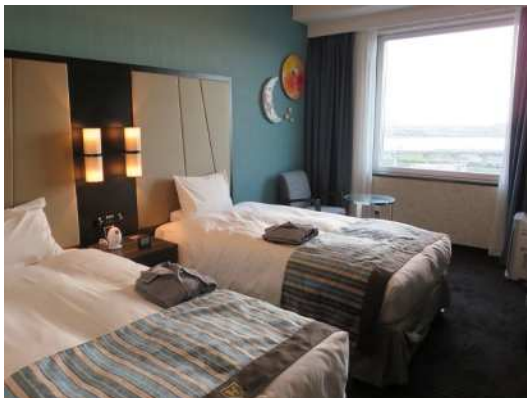
通常の客室のほかに、時間単位で利用できるリフレッシュルームも備えています。ベッドこそないものの、シャワーブース完備の個室でリラックスできるので、早朝便で到着してそのまま出勤するビジネスマンなどには重宝しそうです。また、トランジットホテルの利用客が自由に使えるラウンジや、早朝5時から深夜1時まで営業のレストランなど、エアポートホテルとしての様々なニーズに応える機能を備えています。

### 深夜到着便・早朝出発便の強い味方

開業から約1ヶ月。「オープン前は、9割方が日本人のお客様だろうと見込んでいた」というホテル側の予想に反し、蓋を開けてみると利用客の3割程度を外国人が占めるとのこと。特に目立つのはアメリカ、アジア圏からの利用客で、深夜便で羽田に到着してそのまま日本での1泊目として利用したり、逆に早朝に羽田を出発する便に乗るために最終日の宿として選ぶという使われ方が多く見られるようです。確かに、外国で深夜や早朝に移動するのは少々不安が伴うもの。空港内ホテルへの宿泊という選択肢が増えたことで、深夜早朝便の利用客が増えることが期待されます。



出国エリア内のラウンジでは、出発までゆっくり過ごせる。



西向き窓から外を眺めると、多摩川を挟んで川崎はすぐそこ

### 空港利用者へのPRがカギ

今後の課題についてホテルに尋ねると、「一般エリアより利用の少ない出国エリア（トランジットホテル）のPR。メインターゲットである海外の乗り継ぎ客に効果的にアピールしていきたい。」

また、航空会社などとも協力して、羽田空港の深夜早朝便をより利用しやすい環境作りに努めていきたい」とのこと。

国際空港としての機能強化に寄与する空港内ホテルの誕生。その効果が最大限に発揮されるよう、今後の取組に注目です。

ロイヤルパークホテル ザ 羽田 <http://www.rph-the.co.jp/haneda/>

## 羽田空港アクセスバスの運行時間が拡大！

### ～羽田空港 横浜間の深夜早朝アクセスが改善します～

羽田空港と各地を結ぶ空港リムジンバスを運行する京浜急行バスは、10月26日より、羽田空港と横浜駅（YCAT）間の深夜早朝時間帯の運行時間を拡大しました。

これは、国土交通省と東京都が、京急バスを含むバス事業者と連携して実施する羽田 都心ターミナル駅間の深夜早朝アクセスバスの実証運行に合わせて、京急バスが自主運行で実施するものです。

「当社が新しい事業にチャレンジするとき、最大路線であるYCATを抜きにして考えることはありませんでした。補助金のない自主運行でもいからやろうということになったんです」と話すのは、京浜急行バス株の鬼頭取締役運輸部長。

これまでも京急バスでは、羽田 YCAT及び羽田 新横浜間の深夜早朝バスを運行してきました。今回の運行時間拡大はYCAT路線のみとなりますが、始発バスはこれまでより1時間早くYCATを出発し、最終バスはこれまでより30分遅く羽田空港を出発します。これにより、これまで公共交通機関での利用が難しかった早朝出発便や、出発地での遅れによっては終電・終バスを逃してしまう恐れがあった深夜到着便も、今までより余裕を持って利用できるようになります。

羽田空港の国際線の年間発着枠は、昼間時間帯6万回、深夜早朝時間帯3万回。昼間時間帯の発着枠がほぼフル活用されているのに対し、深夜早朝時間帯については利用可能な枠の半分程度しか活用されていません。この原因の一つとして、「深夜早朝時間帯のフライトに対応する公共交通アクセスの整備が十分でない」ということが挙げられます。しかし一方では、「深夜早朝時間帯のフライトの就航が進まないから、公共交通アクセスが整備されない」とも言え、これらはいわば鶏と卵のような関係だと指摘されています。

「今回我々バス会社としては、この課題に対して“ボールを投げた”という思いです。深夜早朝バスの運行は採算的に厳しい面もありますが、半年間の実証運行期間終了後もできる限り続けていきたい。しかし、このまま深夜早朝フライトの就航が進まないようだと難しい。ぜひ航空事業者においても深夜早朝フライトの就航を積極的に進めていただき、それによりバスの利用者も増えるという好循環を生み出していければと考えています」（同）

京急バスのYCAT路線を含む今回の試みが、深夜早朝発着枠の有効活用の端緒となることが期待されます。

羽田空港（国際線ターミナル）  
横浜（YCAT）間のバス運行時間

これまで

始発	5:00	横浜駅発
	5:39	羽田空港着
最終	0:30	羽田空港発
	1:02	横浜駅着

10月26日から（運行時間拡大）

始発	4:00	横浜駅発
	4:32	羽田空港着
最終	1:00	羽田空港発
	1:32	横浜駅着

1時間  
早く！

30分  
遅く！

## C滑走路延伸事業、年内の供用開始決定 ～国際線の離陸制限緩和へ～



国土交通省は、年内の供用開始を目指して整備を行ってきた羽田空港C滑走路延伸事業について、平成26年12月11日に供用開始することを発表しました。

この事業は、C滑走路を南側に360m延伸するもの。現在、北風時の深夜早朝時間帯の離陸は、陸域への騒音影響軽減の観点からD滑走路の使用を基本としていますが、滑走路の長さが2,500mと短いため、就航できる機材に制限が課されています。今回の延伸事業により、C滑走路の離陸開始位置を南側（海側）にずらしても3,000mの離陸滑走路長を確保できることから、北側の陸域への騒音影響を抑えつつ、長距離国際線などの大型機の就航が可能となり、深夜早朝時間帯の就航先や就航機材の幅が広がることが予想されます。（なお、D滑走路で離陸可能な機材は、今後も原則D滑走路からの離陸となります。）

問い合わせ先 / 神奈川県政策局自治振興部地域政策課 大橋 電話：(045)210-3255



## 国への要望活動を実施しました

～石油コンビナートの強靱化等について / 首都圏空港政策の充実について～

### 「全国石油コンビナート立地道府県協議会」

～会長・神奈川県黒岩知事から菅官房長官に要望書を提出～

全国の石油コンビナートのある道府県（1道1府12県）で構成する「全国石油コンビナート立地道府県協議会」では、昨年度に引き続き、石油コンビナートの強靱化・国際競争力強化・産業保安対策強化について、「平成27年度に向けた国の施策・予算に関する提案・要望書」を取りまとめました。

要望書は8月28日、会長県を務める神奈川県黒岩知事が首相官邸に直接持参。菅官房長官に手渡しました。黒岩知事からは、最新の耐震基準に適合していない高圧ガス設備の耐震補強工事の支援範囲拡大や、大規模災害時における災害対応車両等の緊急通行に係る例外的措置の拡充、また、老朽化が進む我が国のコンビナートの設備更新に対する支援などが求められることを訴え、菅官房長官からは、「できるだけ前向きに捉えていきたい」とのコメントがありました。

要望書の全文は、以下の県ホームページでご覧いただけます。

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f491079/>



問い合わせ先 / 神奈川県安全防災局安全防災部工業保安課 柴谷 電話：(045)210-3479  
神奈川県政策局自治振興部地域政策課 石渡 電話：(045)210-3255

### 四首長連名で、首都圏の空港政策の充実について申し入れ

神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市の四団体は、首都圏に位置する神奈川県としての空港対策について調査研究を行うため、「県・横浜・川崎・相模原空港対策研究協議会」を設置して活動しています。10月10日に開催された第40回県・横浜・川崎・相模原四首長懇談会において、国際競争力の強化に向けた首都圏の空港政策の充実について国に申し入れることが合意され、同24日、今年度事務局を務める横浜市が国土交通省に申し入れ文を持参しました。

今年3月に国際線発着枠が拡大されるなど、利便性が高まっている羽田空港ですが、未就航路線の早期就航や深夜早朝時間帯のアクセス向上など、国際線機能の一層の充実が必要です。また、羽田空港の飛行ルートの見直しを含む首都圏空港の更なる機能強化の具体的検討にあたっては、関係自治体等の意見を十分踏まえて対応することが求められます。更に、空港周辺のまちづくりを支える都市・交通インフラの整備も重要であり、羽田連絡道路の早期整備や、国道357号の着実な整備等に関して、引き続き国の積極的な取組を要望しました。

申し入れ文の全文は、以下のホームページでご覧いただけます。

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f12233/p853116.html>（神奈川県ホームページ内）

問い合わせ先 / 横浜市政策局政策部政策課 吉村 電話：(045)671-3978

#### 編集・発行

神奈川県政策局自治振興部地域政策課 担当：大橋 〒231-8588 横浜市中区日本大通1

電話 (045)210-3255 ファクシミリ (045)210-8837

ホームページ <http://www.pref.kanagawa.jp/div/0602/>

（お問い合わせは、こちらのホームページ下部の「お問い合わせフォーム」からお願いします。）